



学校関係者への発信向け資料

資料1 メリット版

2024年3月

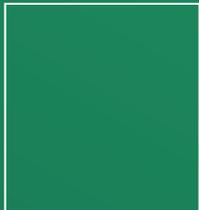
デジタル庁

Agenda

1. 本編

2. 参考資料

- ・ステップ2「教育の質の向上」のメリット詳細
- ・メリット実現のために必要なデータ連携
- ・教員へのメリット周知用資料



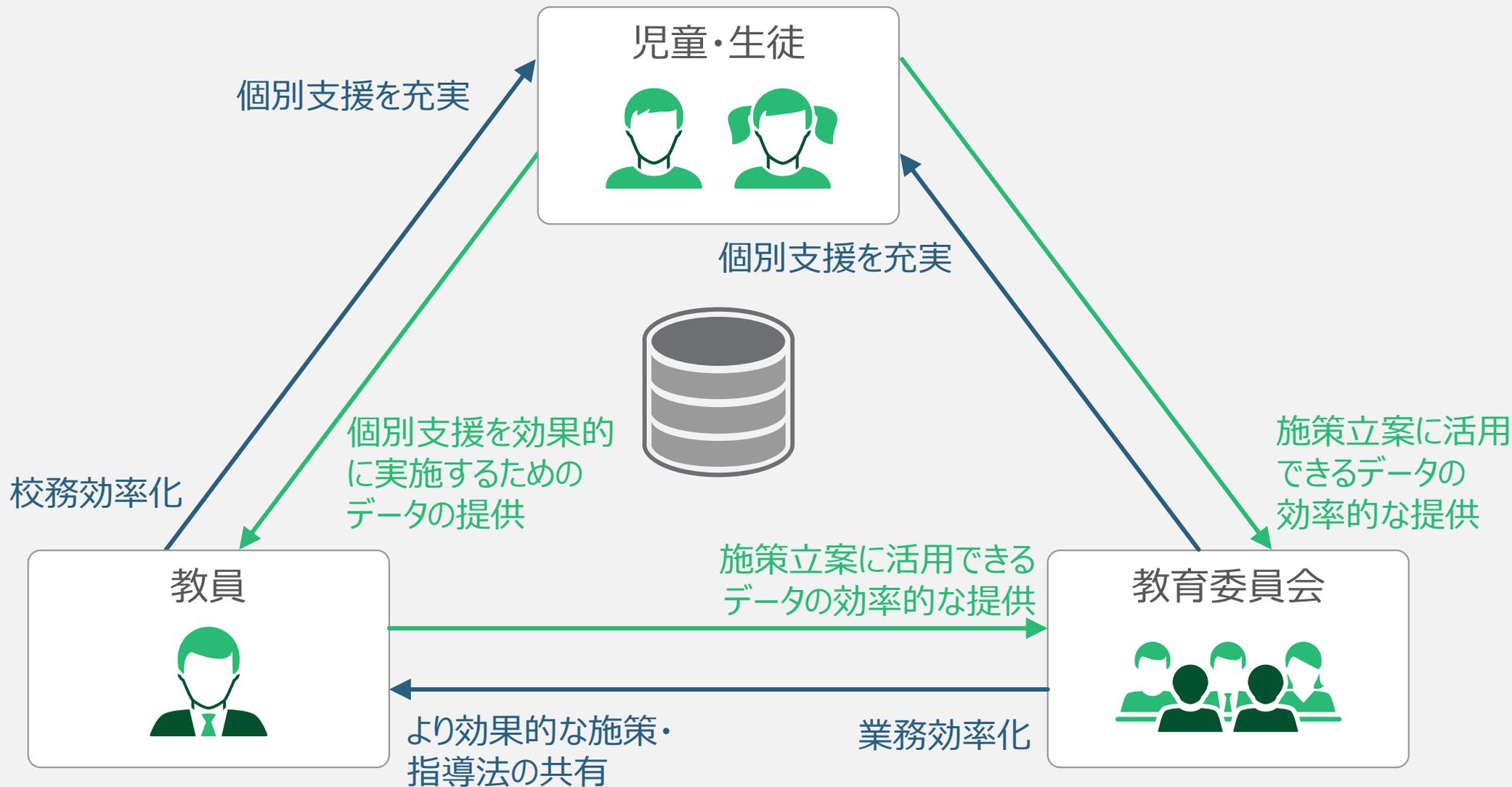
本資料の概要

デジタル庁では、現在データ連携・利活用をすすめています
本資料は、データ連携・利活用を推進する趣旨を、教育委員会・学校教員などの
学校関係者に広くご理解いただくためのものになります

そのため、データ連携・利活用ロードマップをベースに、言及されている教育データ連携に
よるメリットをわかりやすく整理・具体化して説明しています

なお、本資料は公立小中学校を対象としたものです

「教員の校務削減・指導の質向上」「教育委員会の業務効率化・政策の質向上」「児童・生徒の学びの個別最適化」の三方良しを実現



データ連携を推進することで、ステップ1として校務の削減・効率化、 ステップ2として教育の質の向上を実現していく

ステップで考えるメリットの実現



実現済み

ステップ0

アクセシビリティの担保

端末の配布による
アクセシビリティの担保

- (例) 場所や時間を
選ばない学びの実現

ステップ1

校務の削減・効率化

名簿をはじめとするデータ連携による
校務負担の削減

- (例) システムごとの
アカウント連携の業務削減

ステップ2

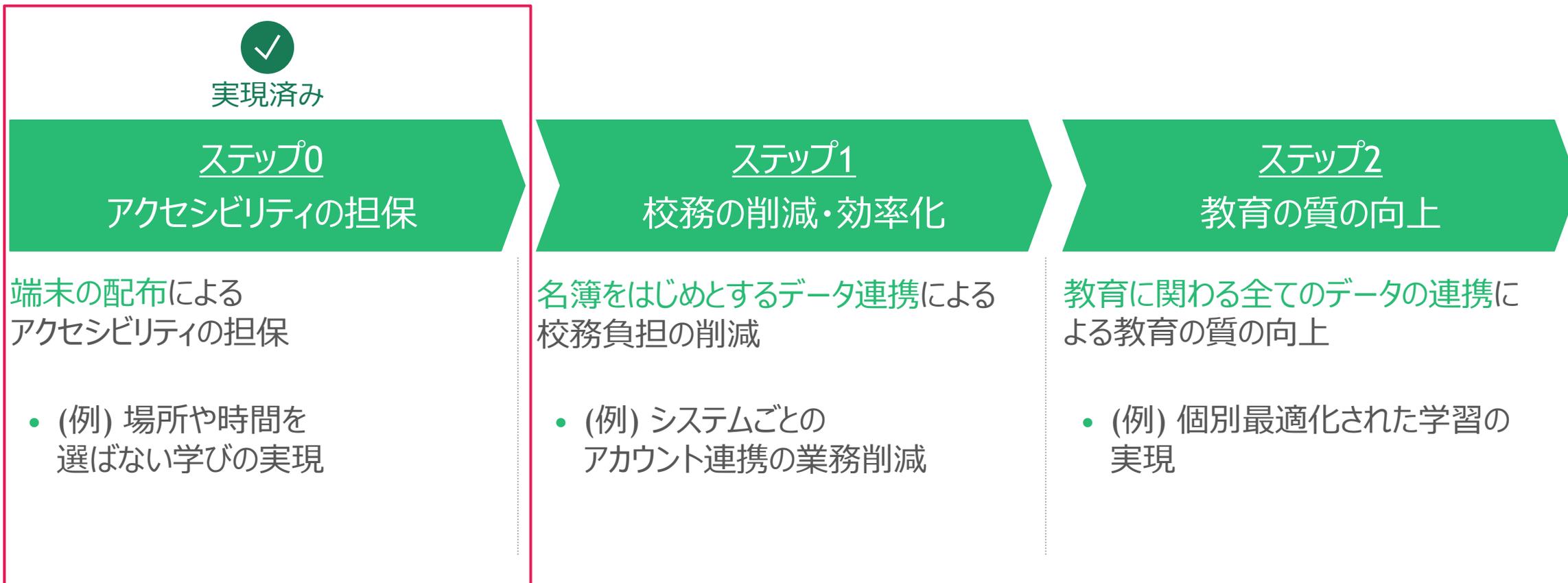
教育の質の向上

教育に関わる全てのデータの連携に
よる教育の質の向上

- (例) 個別最適化された学習の
実現

何の連携で、どのメリットを実現できるのかを具体的に示すことで、現場が実感をもちながらデータの連携を推進することが重要

ステップで考えるメリットの実現



あ 場所にとらわれない学びの実現

自宅でも野外活動中でも部活動中でも、場所や時間に囚われず、端末を活用して学べる

A 自宅での学習が可能



短期的には、教室以外での学びのサポートが可能に

B 自宅はもちろん、野外活動（社会科見学・修学旅行）での調べ学習、部活動をはじめとする課外活動の主体的な学びの実現に活用することができる



中・長期的には、児童・生徒が行う様々な活動の質を高める、目録を確認してなにを深めるのか考えた学習を行う等主体性の育成にも寄与

い 学習教材の充実(専門家の講義等):

教科書や指定のドリルだけでなく、専門家の講義動画や実験映像等、様々な学習リソースへのアクセスを可能とし、学習を充実させる

- 教科書やドリルだけではなく...



- ...専門家の講義動画等、様々な学習リソースにアクセスできる



短期・中長期にかかわらず、児童・生徒が学習で使用する教材を拡充し、学習を充実させることができる

何の連携で、どのメリットを実現できるのかを具体的に示すことで、現場が実感をもちながらデータの連携を推進することが重要

ステップで考えるメリットの実現



実現済み

ステップ0

アクセシビリティの担保

端末の配布による
アクセシビリティの担保

- (例) 場所や時間を
選ばない学びの実現

ステップ1

校務の削減・効率化

名簿をはじめとするデータ連携による
校務負担の削減

- (例) システムごとの
アカウント連携の業務削減

ステップ2

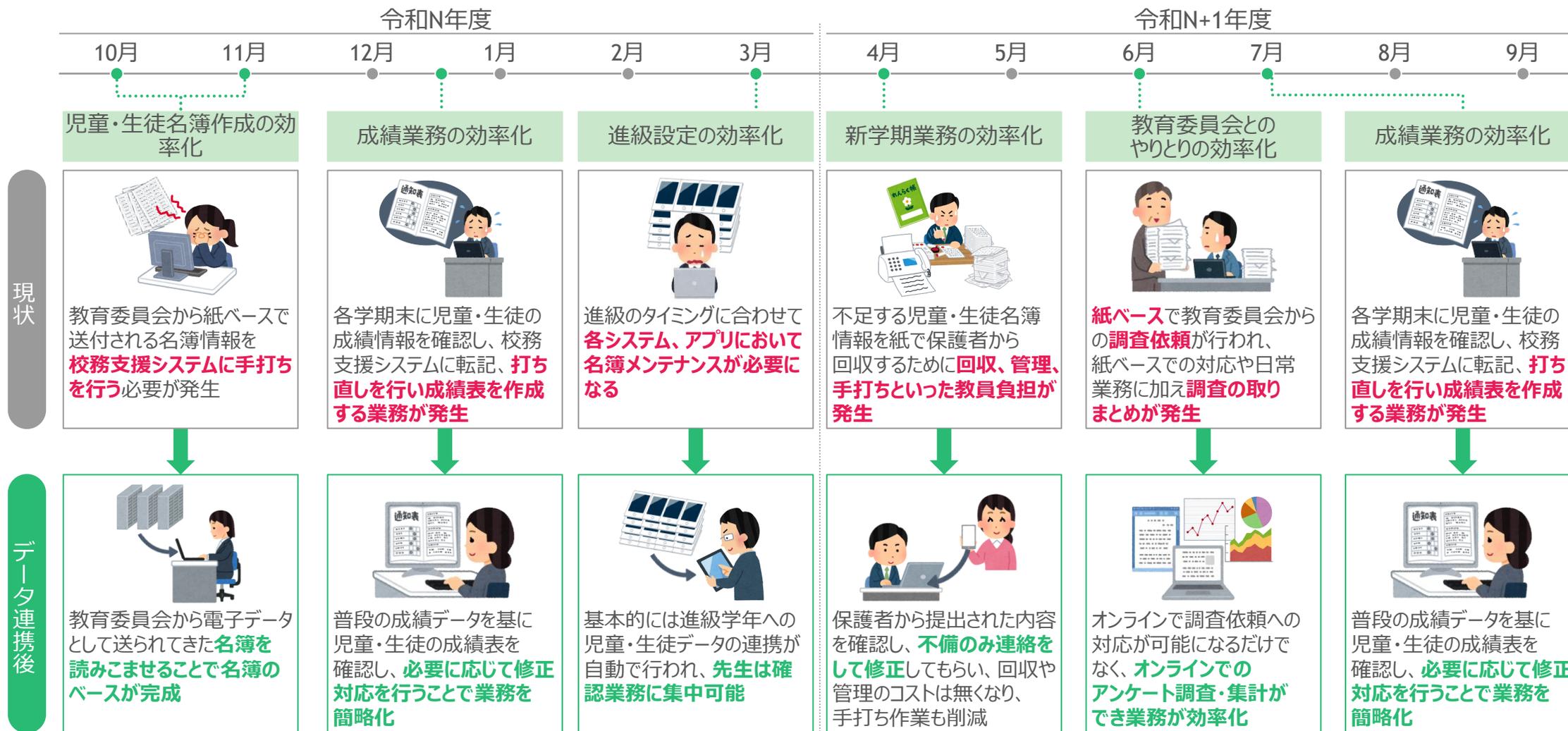
教育の質の向上

教育に関わる全てのデータの連携に
よる教育の質の向上

- (例) 個別最適化された学習の
実現

データ連携によって教員が抱える校務負担を解消することが喫緊の課題

データ連携を通して解消される課題



データ連携などの校務DXにより校務が効率化され、労働時間の大幅削減が期待できる

データ連携を通して削減が見通される業務 (文部科学省『全国の学校における働き方改革事例集』より)

削減できる
見込みの時間

名簿への
転記見直し

-10.8
時間/年

削減できる
見込みの時間

Web
アンケート化

-3
時間/年

削減できる
見込みの時間

指導要録の
電子化

-30
時間/年

削減できる
見込みの時間

連絡帳のやり取り
オンライン化

-33.3
時間/年

削減できる
見込みの時間

伝達事項、
職員朝礼・終礼の
オンライン化

-33.4
時間/年

削減できる
見込みの時間

クラウド型の
出退勤管理
システムの導入

-10.8
時間/年

まずは名簿データ*の連携を進め、校務の削減・効率化を実現。教員が児童・生徒に関わる時間を増やすとともに、学習データの連携も推進することで教育の質を向上させる

ステップ①におけるメリット

ステップ①: 校務の削減・効率化

住基~学習アプリ間における名簿データ連携を土台として、教育・生活・指導データの連携をシステム間で連携させることによって、教員の校務負担を削減することが可能

実現するメリット

- ア 校内での情報共有の効率化
 - 職員間での児童・生徒・学級情報の共有効率化 等
- イ 保護者との連携の効率化
 - 出欠連絡の自動化
 - 提出物のやり取りの効率化
 - その他の連絡のデジタル化による電話・FAX利用の削減 等
- ウ 教育委員会との情報連携・共有効率化
 - 教育委員会との連絡のデジタル化
 - 教育委員会からの調査依頼に対する対応の効率化 等
- エ 校務の削減（進学時・成績処理・集計 等）
 - 学齢簿作成における児童・生徒情報登録の簡略化
 - 新入生データの校務支援システム、学習eポータルへの取り込み作業
 - 全校児童・生徒データの学習アプリデータと学習eポータルのアカウント連携作業
 - 随時発生する集計への対応の効率化 等

*本資料中では、「名簿を含む児童・生徒の属性情報」を、便宜上「名簿データ」と呼称しています

ア 校内での情報共有の効率化

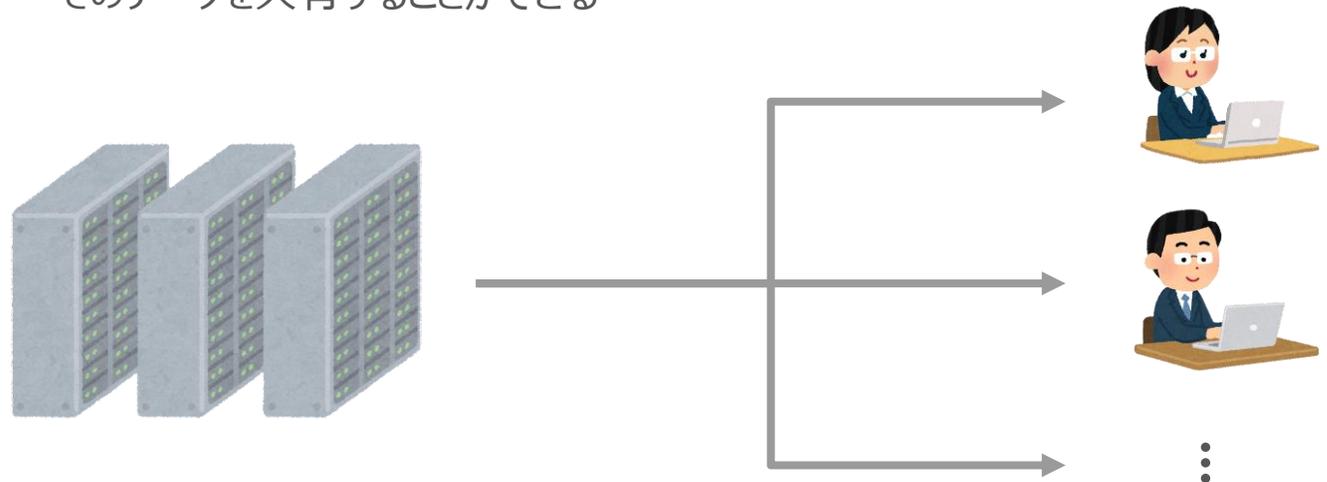
学習・生活・指導データを元に学級の状況や課題がダッシュボードに自動整理され、それが教員間で共有されることで、随時、手間なく情報共有が可能

- A** 現在は、学級の様子に関しては担任が把握している内容を会議や日常のコミュニケーションにて共有する形式



短期的には、今まで担当教員に頼っていた学級の状況把握をデータベースでよりタイムリーに把握できる

- B** 児童・生徒の学習の状況や出欠をはじめとする生活データが蓄積されているため、管理職等が特定の学級や児童・生徒に関する情報を必要とする際は、そのデータを共有することができる



中・長期的には、情報共有が目的の会議削減とともに、管理職等が学校全体の状況をより効率的に確認、サポートすることができ、教員個人の負担軽減につながる

① 保護者との連携の効率化

児童・生徒の状況を保護者と自動的共有し、学校外の学びやケアを充実化。
特に保護者からの問い合わせや、欠席連絡等がオンライン上で自動対応され、教員の業務削減につながる。

- A** 現在はアプリの活用が進みつつあるものの
電話やFAX、連絡帳のやり取り等も並行し
保護者と連絡が教員の負担になっている



短期的には、保護者との連絡をデジタル化し、教員の負担を軽減

- B** 各種やり取りにおいて、特に保護者から報告を受けるものに関しては (出欠連絡 等) 自動対応を実施。また、児童・生徒・学校の様子に関して自動作成されたレポートの共有する等プッシュ型の情報連携も可能になる



中・長期的には、本当に必要なコミュニケーション以外は全て自動化され、教員が時間を教育に対して使うことができるようになる

⑤ 教育委員会との情報連携・共有効率化

教育委員会の調査依頼対応などに対し、効率的に対応可能
さらにデータ共有を通して、より効果的な施策の実現を支援

- A** 現在は教育委員会から学校現場に対して重複する依頼があったり、紙ベースでの調査依頼がきたり、教員は対応に追われることも多い



短期的には、紙の運用を減らし、教員の対応コストを下げる

- B** 教育委員会からの連絡や調査依頼も全てデジタル化されるとともに、各種調査に対しても日常蓄積されているデータの提出での対応が可能になる



中・長期的には、調査に対する対応を含めデータの活用によって簡単に行えるようになり、教員の負担を削減できる

Ⅰ 校務の削減 (名簿作成)

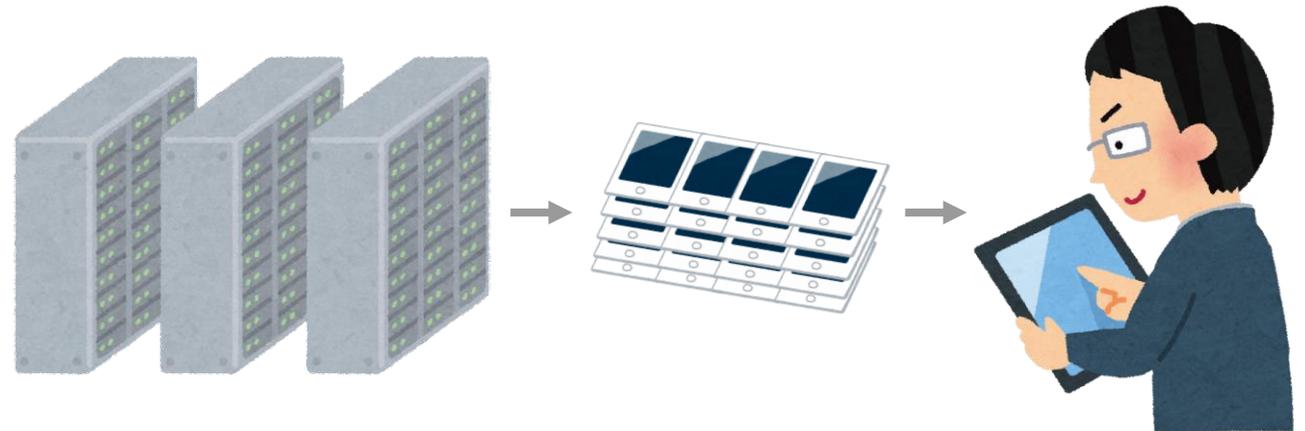
主体情報 (名簿データ) の自動連携や学習・生活・指導データの自動集計・分析・共有で、学籍管理・成績処理・指導要録作成等の校務にかかる手作業を大幅に減らす/なくす

- Ⓐ 新年度を迎えるたびに児童・生徒情報の整理やアプリのアカウント登録等の業務に追われる



短期的には氏名をはじめとする基礎情報の連携が実現、一部連携できないアプリなど、教員による手打ち対応は残る

- Ⓑ 児童・生徒情報は自動連携され、教員の業務は確認作業がメインになる



中・長期的には、校務支援システム側の名簿更新に伴い、他のシステムには名簿情報が自動連携され、教員は確認業務のみを実施する

何の連携で、どのメリットを実現できるのかを具体的に示すことで、現場が実感をもちながらデータの連携を推進することが重要

ステップで考えるメリットの実現



実現済み

ステップ0

アクセシビリティの担保

端末の配布による
アクセシビリティの担保

- (例) 場所や時間を
選ばない学びの実現

ステップ1

校務の削減・効率化

名簿をはじめとするデータ連携による
校務負担の削減

- (例) システムごとの
アカウント連携の業務削減

ステップ2

教育の質の向上

教育に関わる全てのデータの連携に
よる教育の質の向上

- (例) 個別最適化された学習の
実現

ステップ①で実現された名簿データ連携をベースに学習・生活データの連携を進めることで、より幅広い校務の削減・効率化、さらに教育の質を向上できる

ステップ②におけるメリット

ステップ②: 教育の質の向上

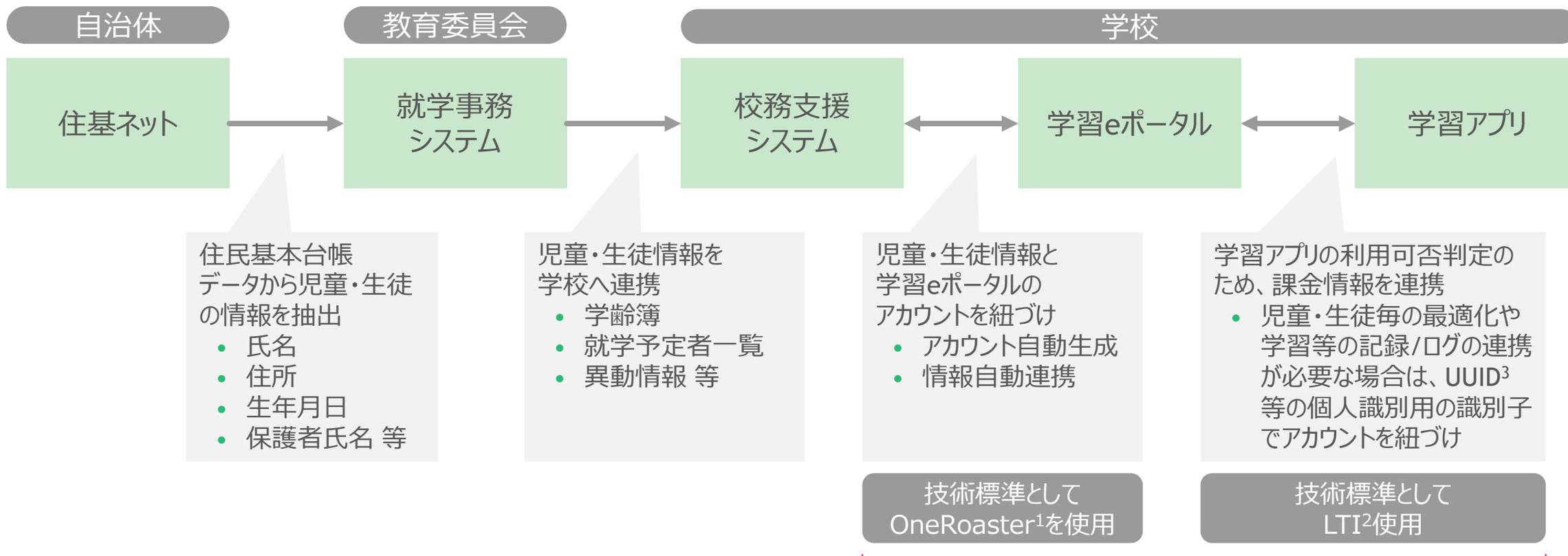
住基~学校アプリ間での名簿データ連携をベースに、学習・生活などのデータがシステム間連携をすることにより、さらなる校務の効率化に加え、教育の質を向上させることができる

実現するメリット

- カ 個別最適化された教材の実現
 - ・ 各児童・生徒の進捗に合わせた教材の提供が可能
- キ 個別支援の充実
 - ・ 各児童・生徒の学習・生活・指導データを基に必要な支援を必要なタイミングで提供させることが可能
- ク きめ細やかな学級・学校経営、児童・生徒指導の実現
 - ・ 各学級や学校全体の状況が瞬時にデータで確認でき必要な対応がタイムリーに可能
- ケ 指導計画・授業準備の効率化・充実化
 - ・ 蓄積されたデータを基に、指導計画案が自動提案される
- コ EBPMによる施策改善・設計
 - ・ 蓄積されたデータを基に、より効果的な施策が実現可能
- サ シ 優良事例の横展開/効果的なカリキュラムや指導法の開発
 - ・ データを基に優良事例を発見し、そのノウハウを自治体内で共有可能
- ス プッシュ型の支援
 - ・ データを基に、必要な行政支援を児童・生徒に提供可能

【目指す姿】名簿データ連携は、校務効率化と学習者ごとの最適な学びに向け、住基ネットから学習アプリまでEnd-2-Endの連携を目指す

名簿データ連携において目指す姿



情報セキュリティのため、
名簿データ等の連携は必要最小限に留めることが望ましい

¹OneRoaster: 教育システム間でのクラス名簿、学習コース、履修クラス、成績等の学習データの交換に用いられる技術標準

²LTI (Learning Tools Interoperability): 学習アプリケーションとツールを、学習管理システムや学習eポータルなどのプラットフォームに安全かつ簡便に接続することを目的とした技術標準

Source: 1EDTECH Japan Society (<https://www.1edtechjapan.org/technical-standard>)

³UUID (Unique User ID): ユーザー一人ひとりを識別するために付与する識別子 (例: 一人ひとつのユニークな番号など)

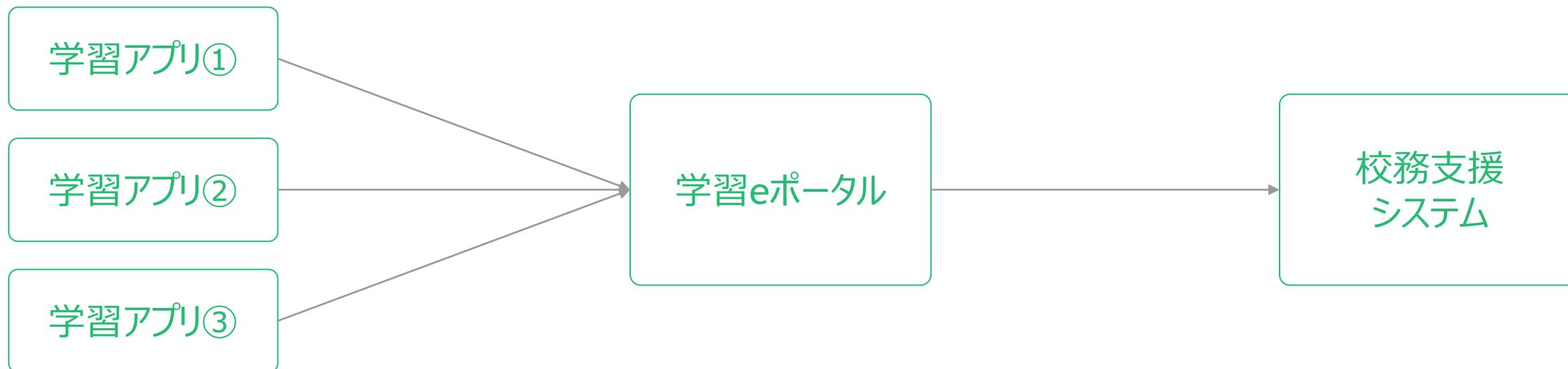
児童・生徒一人ひとりを、異なるシステムの間で紐づけられるようにしておくためには、 学習アプリ～学習eポータル～校務支援システムでの名簿データ連携が必要

教育データ連携・利活用における名簿データ連携の必要性

各学習アプリで
児童・生徒が学習し、
記録データが
作成される

このとき、学習アプリのどの利用者が、
学習eポータルのどの利用者かを紐付ける

学習eポータルのどの利用者が、
校務支援システムのどの利用者かを
紐づけられる



参考資料

- ・ステップ2「教育の質の向上」のメリット詳細
- ・メリット実現のために必要なデータ連携
- ・教員へのメリット周知用資料



カ 個別最適化された教材の実現

個々の児童・生徒の学習履歴や成績を元に、取り組むべき学習内容が自動選定され、学習eポータル等で推薦される

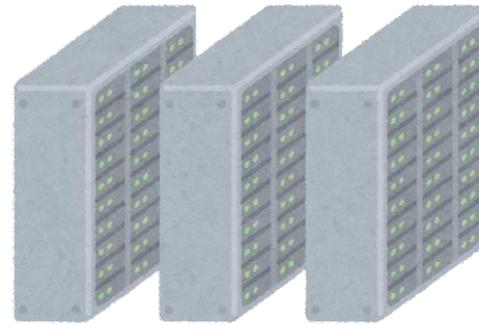
A 児童・生徒が学習アプリを活用して学習

Aさんは進捗が早くて次の単元の問題も解き始めているのか。
B君は少しサポートが必要かもしれない



短期的には各児童・生徒の習熟度理解、サポートの必要有無の判断材料として活用

B 児童・生徒の学習データが蓄積され、児童・生徒の習熟度が分析される



中・長期的には、個々の児童・生徒の進捗・習熟度の分析がなされ、サポートが必要な児童・生徒の通知が教員側に届き、適切なタイミングで児童・生徒のサポートが可能に

C 分析結果を基に、児童・生徒に適切な教材が提案される

今日の小テストで正答率が50%を切っていた児童・生徒には復習教材を中心に宿題を出されている



宿題@自宅

キ 個別支援の充実

個々の児童・生徒の学習・生活行動が教員向けダッシュボードに自動整理され、随時確認でき、児童・生徒が適切なフォローを受けられる

- A** 児童・生徒が学習をアプリで実施し学習の記録が残るようになる。また出欠も電子記録で残す。教員は後から確認するのが楽になる



短期的に、教員が以下が可能になる

- 個々の児童・生徒の学習状況の確認が可能、データをもとに支援方法を考えることができる
- 個々の児童・生徒の出欠や、保護者とのやりとりを電子記録でき、個別支援を考えることができる

- B** 児童・生徒情報は自動連蓄積されたデータを基に、児童・生徒ごとにデータを分析しレポート化されることで教員はレポートを基に児童・生徒に対する個別支援を考えることができる携され、教員の業務は確認作業がメインになる

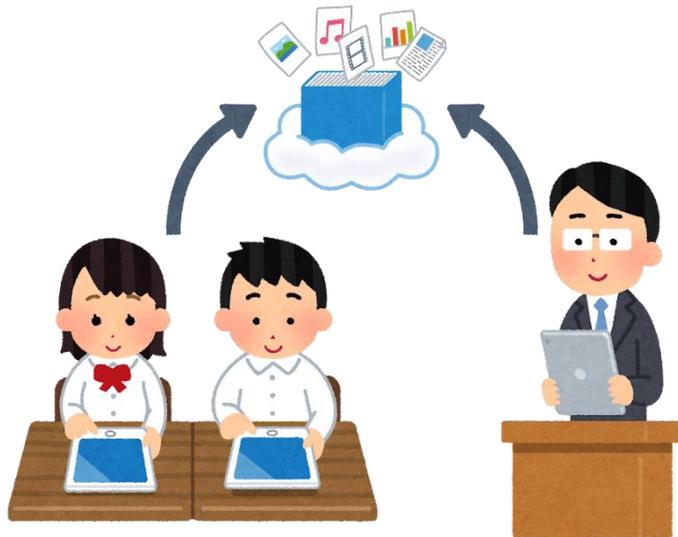


中・長期的に、個々の児童・生徒の学習状況・生活の様子の推移が分析されてレポート化、教員はレポートを基に効率的に児童・生徒支援が可能

ク きめ細やかな学級・学校経営・児童・生徒指導の実現

学級・学校の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、随時に学級・学校の状況を把握して運営できる / 児童・生徒の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、サポート・ケアが必要な児童・生徒が誰か、すぐわかる

- A** 各学級の児童・生徒の学習状況、生活状況、指導に関するデータが蓄積される



短期的には、教員同士で児童・生徒や学級に関するデータを確認したいときに共有・確認が行いやすくなる

- B** 児童・生徒の学習状況、生活状況、指導に関するデータの分析がなされ、データベースでレポートを基に学級・学校経営を実施できる

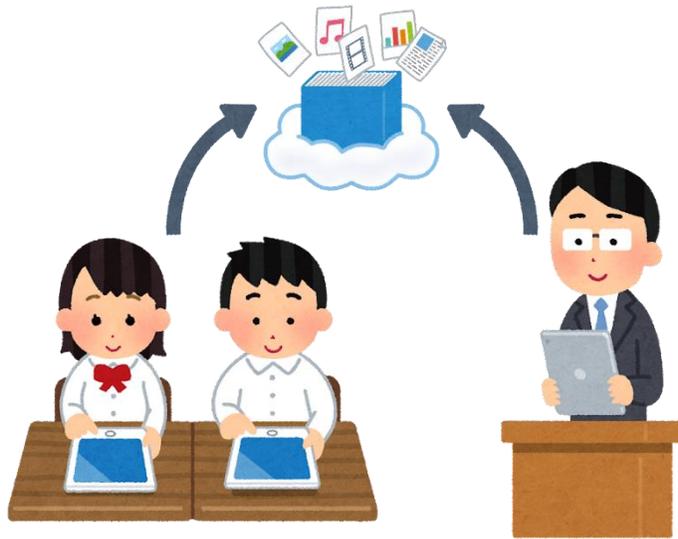


中・長期的には、各学級・学校全体の状況が分析されたうえでレポート / ダッシュボード化され、課題やそれに対する対応策の実施等より効率的・効果的な学級・学校経営が可能になる

ケ 指導計画・授業準備の効率化・充実化

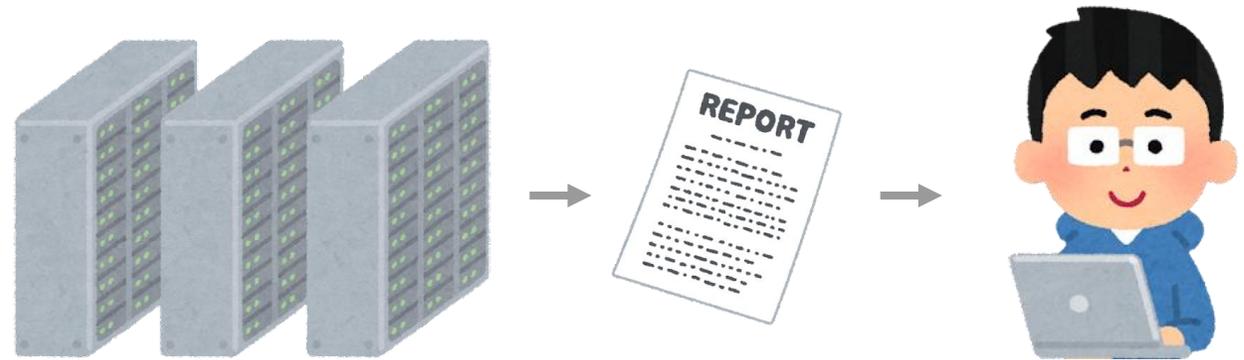
受け持つ学級の学習履歴・成績や指導履歴等を元に、指導計画案の生成や教材の推奨がなされ、指導計画の立案や授業準備が効率化する

- A** アプリを通して行った児童・生徒の学習の進捗や理解度が記録される



短期的には、児童・生徒の正答率から、各学級のテーマに対する理解度が分かり、授業で重点的に取り扱うべきポイントが分かる

- B** 児童・生徒の学習進捗や理解度を基に過去に実施された指導計画の自動生成、教材の推奨が行われ、教員はそれらを参考に効率的な授業準備ができる

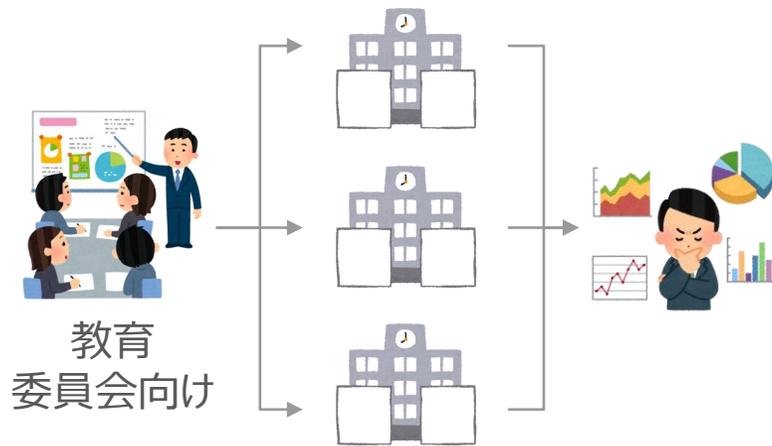


中・長期的には、児童・生徒の理解度に応じて実施された効果的な授業の記録が蓄積され、教員が授業を行う際に活用できるようになる

EBPMによる施策改善・設計

自治体内の学習・成績・生活・指導等の履歴データを元に、課題や施策効果を把握し、施策を設計・改善できる

- A** 現在は教育委員会から各学校に依頼をする形で現場の調査が行われ、その結果を基に施策の設計がなされる



短期的には、日々蓄積されるデータをもとに、施策の検討を進めることができる

- B** 学校現場で日々蓄積されたデータを基に分析がなされ、教員の主観が入ることなく学校現場の実情を適切に把握ができるようになる

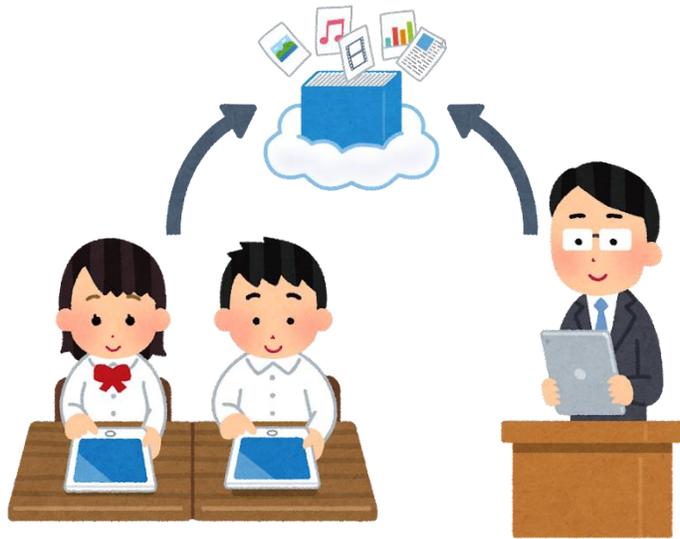


中・長期的には、様々なデータを複合的な観点から分析されて作成されたレポートを基に、より効果的な施策の設計が可能になる

サ 優良事例の横展開

自治体内外の学習・成績・生活履歴等のデータの把握により、優良事例を発見し、学校間・自治体間で横展開できる

- A** 児童・生徒が学習履歴を、教員が指導や児童・生徒の生活に関するデータを蓄積する



短期的には、現時点では発見が難しい優良事例となりうる取組の目星が立てやすくなる

- B** 児童・生徒に関するデータを基に、優良事例になりうる取組の発見が可能になる。さらに、その学級・学校で使用されている教材やその有効活用の仕方、指導法等の洗い出しが可能になる

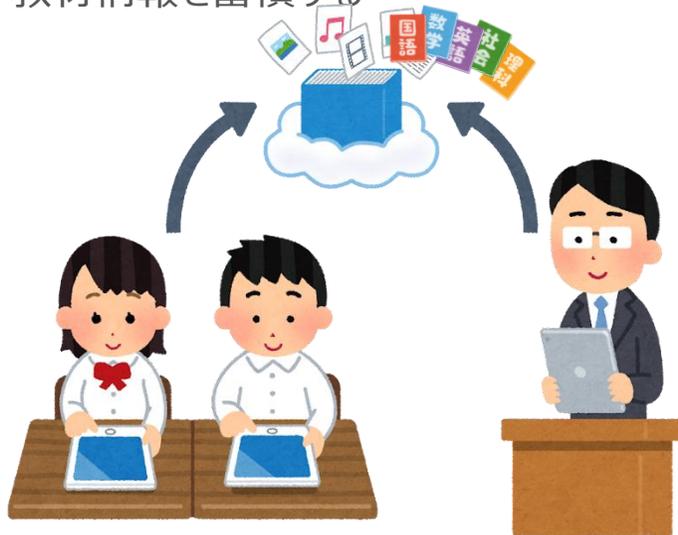


中・長期的には、優良事例においてなされている取組みまで特定ができるようになる

効果的なカリキュラムや指導法の開発

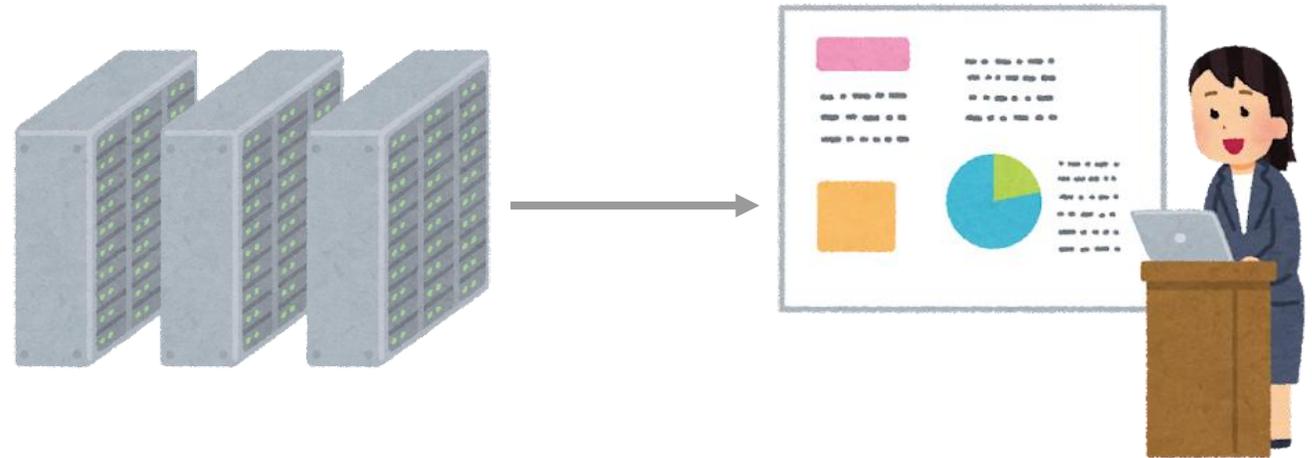
学習・成績・指導履歴を元に、児童・生徒の学習過程や教員の「匠の技」を可視化し、カリキュラムや指導法を開発できる

- A** 児童・生徒が学習履歴を、教員が授業準備に使ったデータや授業内で活用した教材情報を蓄積する



短期的には、現時点では発見が難しい優良事例となりうる取組の目星が立てやすくなる

- B** 実際に効果があったカリキュラムや指導を特定し、より効果的なカリキュラム方法の開発を実施



中・長期的には、優良事例においてなされている取組みまで特定ができるようになる

ス プッシュ型の支援

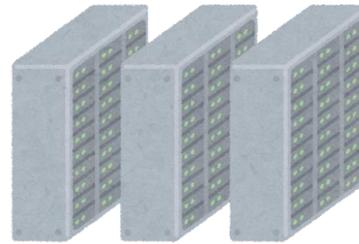
個々の児童・生徒の学習・生活データ等から、支援が必要な可能性がある児童・生徒の早期発見を支援し、関係機関での連携を促進することで、プッシュ型で支援できる

A 潜在的に支援が必要な児童・生徒や家庭の把握が行えるようになる



短期的には、潜在的に支援が必要な児童・生徒や家庭を把握でき、プッシュ型・アウトリーチ型の支援につなげることができる

B 分析データと教員の意見を踏まえ、必要と考えられる支援を行うことができるようになる



中・長期的には、過去のデータを基に児童・生徒の状況に応じた適切な支援や、行政サービスの提案がなされる

教育データの連携によるメリット一覧

メリット享受のために必要な実現事項 (例、イメージ)

期待されるメリット

メリットを享受するために必要な実現事項 (例、イメージ)

期待されるメリット	メリットを享受するために必要な実現事項 (例、イメージ)	
児童・生徒目線	① 個別最適化された教材の実現	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童・生徒の学習履歴や成績を元に、取り組むべき学習内容が自動選定され、学習eポータル等で推薦される
	② 個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童・生徒の学習・生活行動が教員向けダッシュボードに自動整理され、随時確認され、適切なフォローを受けられる
	③ 場所にとらわれない学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 自宅でも野外活動中でも部活動中でも、場所や時間に囚われず、端末を活用して学べる
	④ 学習教材の充実 (専門家の講義 等)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や指定のドリルだけでなく、専門家の講義動画等、様々な学習リソースにアクセスしてより良く学べる
教員目線	⑤ きめ細やかな学級・学校経営・児童・生徒指導の実現	<ul style="list-style-type: none"> 学級・学校の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、随時に学級の状況を把握して運営できる 児童・生徒の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、サポート・ケアが必要な児童・生徒が誰か、すぐわかる
	⑥ 指導計画・授業準備の効率化・充実化	<ul style="list-style-type: none"> 受け持つ学級の学習履歴・成績や指導履歴等を元に、自動で、指導計画案の生成や教材の推奨が行われる
	⑦ 校内での情報共有の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 学習・生活・指導データを元に学級の状況や課題がダッシュボードに自動整理され、それが教員間で共有されることで、随時に手間なく情報共有が可能
	⑧ 保護者との連携の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の状況を保護者と自動的共有し、学校外のケアを充実化 <ul style="list-style-type: none"> - 特に保護者からの問い合わせや、欠席連絡等がオンライン上で自動対応され、教員の業務削減につながる 教育委員会側への報告や、調査依頼対応も自動的に情報が収集されて共有でき、負担削減が可能
	⑨ 教育委員会との情報連携・共有効率化	
	⑩ 校務の削減 (進学時・成績処理・集計 等)	<ul style="list-style-type: none"> 主体情報 (名簿データ) の自動連携や学習・生活・指導データの自動集計・分析・共有により、学籍管理・成績処理・指導要録作成等の校務にかかる手作業を大幅に減らす/なくす
教育委員会	⑪ EBPMによる施策改善・設計	<ul style="list-style-type: none"> 自治体内の学習・成績・生活・指導等の履歴データを元に、課題や施策効果を把握し、施策を設計・改善できる
	⑫ 優良事例の横展開	<ul style="list-style-type: none"> 自治体内外の学習・成績・生活履歴等のデータの把握により、優良事例を発見し、学校間・自治体間で横展開できる
	⑬ 効果的なカリキュラムや指導法の開発	<ul style="list-style-type: none"> 学習・成績・指導履歴を元に、児童・生徒の学習過程や教員の「匠の技」を可視化し、カリキュラムや指導法を開発できる
	⑭ プッシュ型の支援	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童・生徒の学習・生活データ等から、支援が必要な児童・生徒を自動検出し、関係機関で共有して、プッシュ型で支援できる
参考	⑮ 民間教育 (塾 等) とのシームレスな学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童・生徒の学校と塾での学習履歴を踏まえて、学校でも塾でも連続的に・重複なく・補完しあうように学べる
	⑯ 外部との (塾 等) との連携の実現	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の状況を塾等の学習機関と自動的共有し、学校外の学びを充実化

メリット享受のための必要事項の実現に向け求められるデータ連携 (1/3)

メリットを享受するために必要な実現事項

必要になるデータ連携

	主体情報 (児童・生徒) 連携				活動情報連携				
	住基ネット～ 就学事務	就学事務～ 校務支援	校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	学習活動		生活活動	指導活動	
					校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	校務支援 (連携なし)	校務支援 (連携なし)	
児童・生徒目線 ① 個々の児童・生徒の学習履歴や成績を元に、取り組むべき学習内容が自動選定され、学習eポータル等で推薦される ② 個々の児童・生徒の学習・生活行動が教員向けダッシュボードに自動整理され、随時確認され、適切なフォローを受けられる ③ 自宅でも野外活動中でも部活動中でも、場所や時間に囚われず、端末を活用して学べる ④ 教科書や指定のドリルだけでなく、専門家の講義動画等、様々な学習リソースにアクセスしてより良く学べる				✓		✓			
			✓	✓	✓	✓	✓		
	端末の配布のみで、データ連携は不要								学習活動データを使用したい場合、結局対応するシステム間での名簿データも連携が必要
	教材の拡充のみで、データ連携は不要								
教員目線 ⑤ 学級・学校の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、随時に学級の状況を把握して運営できる ・ 児童・生徒の学習・生活・指導データがダッシュボード上に自動整理され、サポート・ケアが必要な児童・生徒が誰か、すぐわかる ⑥ 受け持つ学級の学習履歴・成績や指導履歴等を元に、自動で、指導計画案の生成や教材の推奨が行われる ⑦ 学習・生活・指導データを元に学級の状況や課題がダッシュボードに自動整理され、それが教員間で共有されることで、随時に手間なく情報共有が可能 …			✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	住基ネット - 校務支援システム間において必ずしも名簿データが連携される必要はないのではないか			✓	✓	✓	✓	✓	✓
			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

メリット享受のための必要事項の実現に向け求められるデータ連携 (2/3)

メリットを享受するために必要な実現事項

必要になるデータ連携

	主体情報 (児童・生徒) 連携				活動情報連携					
	住基ネット～ 就学事務	就学事務～ 校務支援	校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	学習活動		生活活動	指導活動		
					校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	校務支援 (連携なし)	校務支援 (連携なし)		
⋮										
教員目線	8 児童・生徒の状況を塾等の学習機関や、保護者と自動的に共有し、学校外の学びやケアを充実化 - 特に保護者からの問い合わせや、欠席連絡等がオンライン上で自動対応され、教員の業務削減につながる				✓	✓	✓	✓	✓	✓
	9 教育委員会側への報告や、調査依頼対応も自動的に情報が収集されて共有でき、負担削減が可能									
	10 主体情報 (名簿データ) の自動連携や学習・生活・指導データの自動集計・分析・共有により、学籍管理・成績処理・指導要録作成等の校務にかかる手作業を大幅に減らす/なくす				効率化の対象業務により異なる (詳細次頁)					
教育委員会	11 自治体内の学習・成績・生活・指導等の履歴データを元に、課題や施策効果を把握し、施策を設計・改善できる						✓	✓	✓	✓
	12 自治体内外の学習・成績・生活履歴等のデータの把握により、優良事例を発見し、学校間・自治体間で横展開できる						✓	✓	✓	✓
	13 学習・成績・指導履歴を元に、児童・生徒の学習過程や教員の「匠の技」を可視化し、カリキュラムや指導法を開発できる						✓	✓	✓	✓
	14 個々の児童・生徒の学習・生活データ等から、支援が必要な児童・生徒を自動検出し、関係機関で共有して、プッシュ型で支援できる				✓	✓	✓	✓	✓	✓
参考	15 個々の児童・生徒の学校と塾での学習履歴を踏まえて、学校でも塾でも連続的に・重複なく・補完しあうように学べる					✓		✓	※学習活動は外部連携も必要	
	16 児童・生徒の状況を塾等の学習機関と自動的に共有し、学校外の学びを充実化				✓	✓	✓	✓	✓	✓

分析・調査に使用する学力や生活データは必ずしも名簿データが連携されている必要はない

※教育委員会での必要事項・メリットの実現には、教育委員会へのデータ連携も必要

メリット享受のための必要事項の実現に向け求められるデータ連携 (3/3): 校務効率化

必要になるデータ連携

主体情報 (児童・生徒) 連携

活動情報連携

	主体情報 (児童・生徒) 連携				活動情報連携				
	住基ネット ~ 就学事務	就学事務 ~ 校務支援	校務支援 ~ 学習eポータル	学習eポータル ~ 学習アプリ	校務支援 ~ 学習eポータル	学習eポータル ~ 学習アプリ	生活活動 (連携なし)	指導活動 (連携なし)	
学籍管理 a 入学、進級、転出入など学籍する児童・生徒の状況を一元的に管理できる	✓	✓							
採点評価 b 宿題教材の選定、作成、印刷、採点、点数転記業務の削減、さらに各児童・生徒に適正な宿題の提供				✓	✓	✓	✓		
生活指導 c 蓄積されたトラブルデータを基に一部自動的に対応策の提示が可能							✓	✓	
d トラブルの情報共有が簡単なため、1人の教員が抱え込むことなく対応可能							✓	✓	
会議 e 授業の進捗や各学級の状況はデータで分かるので情報共有の会議を削減 (例: 教科進捗会議)				✓	✓	✓	✓	✓	
学校行事 f 蓄積されたデータをもとに各行事の素案作りを効率化	行事などの事務データの蓄積が必要								
g 必要な業務が可視化され、外注を効率化	行事などの事務データの蓄積が必要								
保護者対応 h 保護者とのやりとり履歴や過去のトラブル情報を基に対応を効率化							✓	✓	
i 保護者とのやりとりもオンライン化し、紙の管理や紙ベースのやり取りを削減							✓	✓	
j トラブルの情報共有が簡単なため、1人の教員が抱え込むことなく対応可能							✓	✓	
事務 k 教育委員会とのやりとりをオンライン化、特に依頼・調査に対して日々の蓄積データで対応可能					✓	✓	✓	✓	
l 決裁フローを可視化し、案件の状態をオンライン上で管理可能	決裁などの事務データが必要								
部活 m 業務が可視化され、データも残せるため分担や外注が行いやすい							✓	✓	
進路指導 n 出願書類に伴うやり取り、必要書類の管理の効率化			✓	✓	✓	✓	✓	✓	
o 個々の進学先と現在の成績に合わせた指導が可能			✓	✓	✓	✓	✓	✓	

校務効率化の観点からは生活活動・指導活動のデータを校内で蓄積・共有できる状態にしておくことが重要

(参考) メリット享受のための必要事項の実現に向け求められるデータ連携

期待されるメリット

必要になるデータ連携

	主体情報 (児童・生徒) 連携				活動情報連携				
	住基ネット～ 就学事務	就学事務～ 校務支援	校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	学習活動		生活活動	指導活動	
					校務支援～ 学習eポータル	学習eポータル～ 学習アプリ	校務支援 (連携なし)	校務支援 (連携なし)	
児童・生徒目線	① 個別最適化された教材の実現			✓		✓			
	② 個別支援の充実		✓	✓	✓	✓	✓		
	③ 場所にとらわれない学びの実現	端末の配布のみで、データ連携は不要							
	④ 学習教材の充実 (専門家の講義 等)	教材の拡充のみで、データ連携は不要							
教員目線	⑤ きめ細やかな学級・学校経営・児童・生徒指導の実現		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	⑥ 指導計画・授業準備の効率化・充実化		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	⑦ 校内での情報共有の効率化		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	⑧ 保護者との連携の効率化		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	⑨ 教育委員会との情報連携・共有効率化		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	⑩ 校務の削減 (進学時・成績処理・集計 等)	前頁に個別記載							
教育委員会	⑪ EBPMによる施策改善・設計				✓	✓	✓	✓	
	⑫ 優良事例の横展開				✓	✓	✓	✓	
	⑬ 効果的なカリキュラムや指導法の開発				✓	✓	✓	✓	
	⑭ プッシュ型の支援		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
参考	⑮ 民間教育 (塾 等) とのシームレスな学びの実現			✓		✓	※学習活動は外部連携も必要		
	⑯ 外部との (塾 等) との連携の実現		✓	✓	✓	✓	✓	✓	

データ連携で校務効率化と教育の質の向上を実現

デジタル庁からのご案内 (2024/4/xx)

A データ連携とは何か?

住基～学習アプリまで一貫した児童・生徒の主体/学習/生活データの連携を行い、それによって校務の削減、効率化や教育の質を向上を実現すること

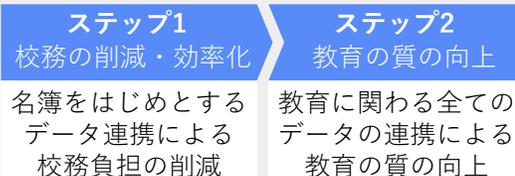
教育現場の様々なデータを、使用されているシステム間で連携させることを目指します

- 主体情報
 - ・ 児童・生徒情報 (性別、生年月日 等)
- 活動情報
 - ・ 生活活動 (学校の出欠 等)
 - ・ 学習活動 (学習記録 等)
 - ・ 指導活動 (指導分野の記録 等)



B なぜ行うのか?

データ連携によって校務を削減、効率化することで、教員の働き方改革を押し進めるとともに、個別最適化された教育の実現を図るため



C 何が必要か?

- ・ 現在、教育委員会や学校現場で使用されているシステムのデータ連携
- ・ 上記に伴うデータの移行
 - ※データの移行につきましては、教員の皆様のご協力をいただくものになります。詳細は各自治体の教育委員会の方針に沿ったものになりますが、長期目線での学校の働き方改革、教育の質向上のためご協力何卒よろしくお願いたします

D 具体的なメリットはどのようなものか?

ステップ1 校務の削減・効率化

例:

新学期業務の効率化

Before

不足する児童・生徒名簿情報を紙で回収した後、手打ちをする



After

提出内容を確認し不備のみ連絡をしてオンライン上で修正してもらう



教育委員会とのやりとりの効率化

Before

教育委員会と紙ベースでやり取りするため、取りまとめが発生



After

オンラインでやり取りが完結するため、業務が効率化



ステップ2 教育の質の向上

例:

個別支援の充実

児童・生徒の学習・生活行動が教員向けダッシュボードに自動整理され、児童・生徒に適切なフォローができる



指導計画・授業準備の効率化、充実化

学習履歴等を基に、指導計画案の生成や教材の推奨がなされ、指導計画の立案や授業準備が効率化する



詳しくはこちらからウェブサイトアクセスしてください! <https://www.digital.go.jp/xxxx>

QR code

フォント "Noto Sans JP" について

【フォント種類】

Japanese Font: Noto Sans JP
English Font: Noto Sans JP

【正しいフォント】

ABCDEFGGabcdfefg
あいうえお
一、二、三、四

【注意点】

こちらのfmtで使用されている「Noto Sans JP」という種類のフォントはデフォルトでPCに搭載されていないフォントのため、このfmtを使用される方は各々PCにこちらのフォントをインストールして頂く必要があります

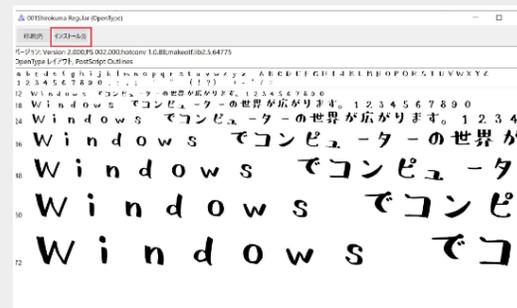
※フォントのウィンドウでは表示される＝インストールされている、ではなく、インストールしていないと代替フォントが自動で使われてインストールされている人の画面と齟齬が起きる場合があります

【フォントインストール方法】

①フォントを以下からDL

[Please download "Noto Sans JP" from here](#)

②ダウンロードしたものを開いてインストールをクリック



※ネットから拾った稼働なので実際のNoto Sans JPのデザインとは異なります

③パワーポイントを再起動するとインストールされたフォントが使えるようになります



[bcg.com](https://www.bcg.com)